

## 女性医師支援からすべての医師のワークライフバランスへ

### From Support for Female Physicians to Improvement of the Working Environment for All Physicians

大越 香江（京都大学医学部附属病院消化管外科 医員）

#### 【メンバー】

久本 憲夫（京都大学大学院経済学研究科 教授）

草野 千秋（京都大学大学院文学研究科グローバル COE 研究員）

久保 肇（京都大学大学院医学研究科消化管外科 講師）

#### 【ねらいと目的】

近年、医師国家試験合格者の3分の1は女性で、今後女性医師は増加していくと予想される。医師不足が社会問題化する中、女性医師の離職防止・復職支援は重要課題である。昨年度の調査研究において京大病院における女性医師の現状と今後求められる支援についてアンケートを行った。女性医師の配偶者の多くが医師であり、育児の過程で自分の母親、院外保育園について配偶者が役に立ったという回答が多く、周囲の医師の理解の重要性が示唆されるなど、すべての医師の勤務条件緩和が女性医師の支援にもなりうることが判明した。また、医療崩壊の一因として劣悪な勤務条件を挙げた回答が多く、89.7%が男性医師も含めたすべての医師の勤務条件の緩和が必要であると答えていた。この医療崩壊は社会的にも重要で切迫した問題である。今年度は女性医師のみならず、すべての医師のワークライフバランスについて調査し建設的な提言に結び付けたいと考えている。

シンポジウムやセミナーの開催により広く意見を募り議論を深めること、また調査票を用いたアンケート形式の職務調査により医師の勤務内容を把握する。その上でほかの職種による代替・軽減可能な業務がないかについて洗い出しをしたいと考えている。さらに、勤務状況と満足度、ストレス、不満、メンタルヘルスなどの因果関係を明らかにすることにより、医師の勤務状況を改善する一助になるような研究とする。

#### 【活動の記録】

(1) シンポジウム 日時 平成21年5月30日（土）13時～16時30分

場所 芝蘭会館別館研修室2

司会：京都大学医学部附属病院消化管外科 大越香江

開会の挨拶：京都大学大学院医学研究科長 光山正雄

大阪厚生年金病院院長 清野佳紀

「働きやすい病院の職場づくり ― 女性医師支援から職員全員のワークライフバランスへ」

内閣府男女共同参画局推進課企画官 大西知子

「女性医師の活躍を目指して」

京都府医師会理事 桑原仁美

「女性医師への京都府医師会の取り組み」

京都大学医学部附属病院消化管外科 大越香江

「京大病院女性医師アンケート結果および今後の調査研究方針」

閉会の挨拶：京都大学女性研究者支援センター推進室長・京都大学大学院文学研究科教授

伊藤公雄

## (2) 調査研究

京大病院各科医師約 30 名対象の職務調査

実施時期：平成 21 年 5 月

対象：京大病院に勤務する各科医師約 30 名

調査内容：3 日間の業務内容をタイムテーブルに記載。減らしたいと考えている業務、勤務に対して満足な点・不満な点を列挙してもらった。

方法：個人的に知り合いの医師に依頼し、学内便で回収した。

全医師対象の調査研究の前調査として施行。

## (3) 調査研究

京大病院全医師 643 名に対するアンケート調査

実施時期：平成 22 年 3 月

対象：京大病院に勤務する全医師

調査内容：医師のワークライフバランスについて、基本属性、勤務環境、報酬、疲労感・業務遂行・家庭責任に対する個人の認知、満足度、医療の質などを質問。

## 【成果の概要】

平成 21 年 5 月 30 日に第 2 回女性医師支援に関するシンポジウム「女性医師支援からすべての医師のワークライフバランスへ」を開催した。大阪厚生年金病院清野佳紀院長より、大阪厚生年金病院における全職員を対象にした育児支援などの取り組み、多様な勤務形態の提案などをご紹介いただいた。また、内閣府男女共同参画局推進課企画官大西知子氏より、女性医師支援についての提言、政府としての取り組みについてご講演をいただいた。また、桑原仁美京都府医師会理事より、京都府医師会の現状と今後の取り組みについてご紹介いただいた。もはや女性医師の勤務環境をどうこうするのみならず、勤務医師全体の勤務環境を整備するべきであるというこの場で議論した内容を調査研究の内容に取り入れることとした。

前調査として、京大病院の医師約 30 名に職務調査を行い、3 日間の仕事内容をタイムテーブルに記載してもらった。回答者 29 名のうち、主として臨床業務に携わり、調査票の記載に不備のなかった 16 名について 1 日の平均労働時間は 11 時間 24 分であった（育児中女性医師の 8 時間 42 分から外科系研修医の 17 時間まで）。また、減らしたいと思っている業務内容、業務に関して満足している点・不満な点を記載してもらった。これらは今後の勤務環境の改善の一助となり得ると考え、さらにこの内容をもとに京大病院で勤務する医師を対象とした調査票を作成した。質問事項は (1) 基本属性、(2) 勤務環境（人間関係などのソフト・医療設備、オーダーシステムなどのハード面）、(3) 報酬、(4) 疲労感・業務遂行・家庭責任に対する個人の認知、満足度、(5) 医療の質などである。本調査研究に関して京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院医の倫理委員会で審査を受け、承認を得た後 3 月 18 日より 31 日の期間に調査を実施した。



平成 21 年 5 月 31 日シンポジウムの写真